

[成果情報名] 葉ショウガ可食部の硬度および辛味成分と栽培日数との関係

[要 約] 葉ショウガの分けつ茎の硬度は、2次分けつ茎の発達による4本立の発生前に収穫することで低く保たれる。分けつ茎のジンゲロール含量は、栽培日数が長いと主茎と同程度の含量まで増加する。

[キーワード] 葉ショウガ、硬度、ジンゲロール

[担 当] 静岡農林技研・新品種開発部・品質流通・機能性研究

[連 絡 先] 電話 0538-36-1558、電子メール agrihinsyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 流通加工

[分 類] 技術・参考

[背景・ねらい]

本県静岡市で生産される葉ショウガは、3月から7月にかけて出荷される早生栽培の特産品である。そこで、葉ショウガの内容品質の特性について調べ、嗜好性を高める栽培法の確立のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 硬度約20N以上で硬さとすじっぽさが強く感じられることが明らかとなっている(データ略)。慣行の栽培期間では、収穫期の全期間を通じて主茎の硬度は平均で20Nを超えているが、分けつ茎は栽培日数が95日までなら20Nを超えない(図1)。
- 2 栽培日数が長くなるに従い分けつ茎も増加してくるが、90~100日では圃場における4本立(主茎1本+分けつ茎3本)の割合は1割前後である。4本立が出始め頃までに収穫すれば分けつ茎の平均硬度は20Nを超えていないことから、4本立の増加または3本立における2次分けつ茎の発達は収穫の目安となる(図2)。
- 3 各ジンゲロール含量は、慣行の収穫期間内では主茎においては一定の傾向は見られな
いが、分けつ茎では収穫期間内では栽培日数が長いと増加する傾向がある(図3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 慣行の栽培期間は、は種時期によって異なるため作期に応じた栽培日数管理が必要。
- 2 灌水や施肥等の栽培管理条件については考慮していない。

[具体的データ]

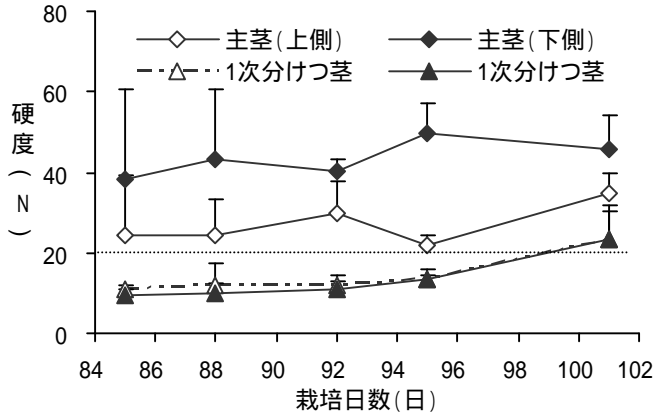


図1 葉ショウガ部位別硬度と栽培日数との関係^{1) 2)}

1) n=3, 1/26 は種, 88日~95日が慣行収穫期
2) バーは標準偏差

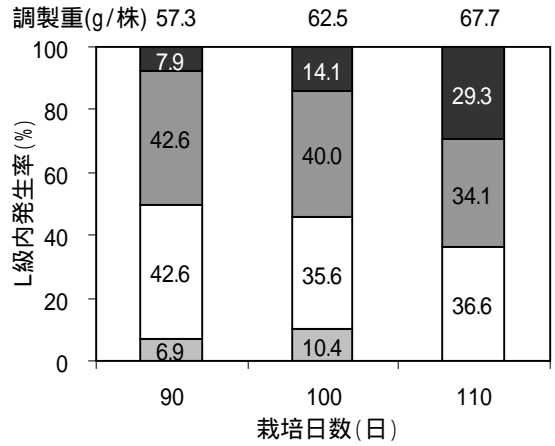


図2 栽培日数の異なるL級葉ショウガの分
けつ茎別発生率¹⁾

1) 90日:n=101, 2/28は種, 100日:n=135, 2/18は種,
110日:n=82, 2/8は種

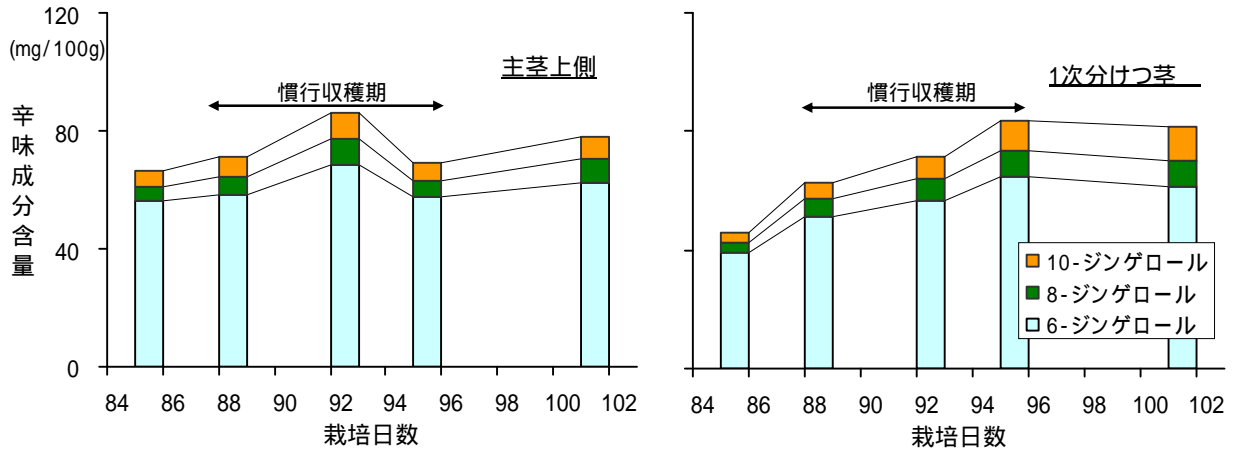


図3 葉ショウガ可食部位別ジンゲロール含量と栽培日数との関係¹⁾

1) n=3, 1/26 は種

[その他]

研究課題名：県特産野菜の機能性評価と成分変動要因の解明

予算区分：県単

研究期間：2005～2009年度

研究担当者：牧田英一、池ヶ谷篤、今原淳吾